

JGAGolf Journal



ゴルフ界がひとつになる未来へ向けて 100周年を迎えるJGAが 旗振り役となるべき



JGAは今年10月、創立100周年を迎える。定款を変更し、ゴルフの普及振興を活動の柱に据えたJGAが100年の節目を迎えるにあたりどんな未来図を描いていくべきか。池谷正成会長と山中博史専務理事が語り合った。



JGAの事業内容を語る山中博史専務理事



山中 新型コロナウイルスが5類に移行した2023年はいろいろなことがノーマルな状態に戻りました。その中で、池谷会長にはさまざまなJGA主催競技に足を運んでいただきましたが、いかがだったでしょうか。

池谷 昨年は夏が非常に高温で、どの競技も開催倶楽部がコースのメンテナンスに苦勞されていたことが強く印象に残っています。競技のほうは山中専務理事が言うようにノーマルに戻ったことで3オープン(日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープン)は本格的に観客を入れての開催となったわけですが、日本女子オープンは約2万6000人、日本オープンは2万3000人近い入場者がありました。コロナ禍で足が遠のいていた方も戻ってきて、そういう意味では手応えのある再スタートの年になったのではないのでしょうか。

山中 日本女子オープンは福井県の芦原GCでの開催でした。

池谷 恐竜の化石がたくさん発見されている福井県にちなんで恐竜をイメージしたマスコットをあしらったグッズがとても人気があって、飛ぶように売られていたね。競技の内容も素晴らしかった。

山中 優勝した原英莉花選手と2位の菊地絵理香選手は3日目と最終日が同じペアリングで熱戦を演じましたね。

池谷 二人とも素晴らしい内容のゴルフを展開してくれたので非常に盛り上がりました。日本オープンのほうも久しぶりに石川遼選手が活躍して盛り上げてくれました。優勝した岩崎亜久竜選手は昨年ヨーロッパでつらい思いをしたようですが、そこで学んだことが活かされたような良いゲームをしていました。また1人新しい

ゴルフの普及振興活動に注力する池谷正成会長



大変な盛り上がりを見せる日本女子オープン

スターが出てきた感があります。

山中 男子はツアーの賞金ランキング1位から3位がみなJGAナショナルチーム卒業メンバーでした。

池谷 そうですね。実質的なルーキーイヤーだった中島啓太選手と蟬川泰果選手が1位、2位で、少し前にプロ転向していた金谷拓実選手が3位でしたね。JGAがナショナルチームのコーチングスタッフにオーストラリアからガレス・ジョーンズさんら呼んでもう8年経ちましたが、その成果が花開いた年といっても過言ではないと思っています。

山中 欧州DPツアーで優勝した久常涼選手もJGAナショナルチーム出身です。

池谷 久常選手は米ツアーの出場資格を得ましたし、日本の上位3人をはじめ若手が世界の至る所で優勝を、できればメジャーでね、そういうことをやっていただけ

ツアーを席巻する選手達のナショナルチーム時代の



ガレス・ジョーンズ選手の指導の下、多くの選手達が世界を舞台に羽ばたいている



金谷、中島のマコーマックメダル獲得や蟬川の日本OP優勝につながった



2022年の世界アマ出場時の中島、蟬川、岡田

ば日本のゴルフ界が非常に盛り上がります。国内でプレーする機会が減るでしょうけれど、その穴を埋める選手を……。

山中 我々が育てていくということですね。以前はJGAナショナルチームのメンバーがプロになったら我々はノータッチでしたが、今はプロ転向後も希望すればジョーンズヘッドコーチらの指導を受けたり合宿に参加できるといったルーキープロプログラムがあり、アマチュアとプロの一气通貫がうまくいっていると感じます。昨年のダンロップフェニックスでは現役JGAナショナルチームメンバーの杉浦悠太選手が先輩の中島選手や蟬川選手を抑えて優勝という快挙を成し遂げました。

池谷 杉浦選手も今年、活躍してくれるでしょう。女子はナショナルチームOGがひと足先に大活躍してくれていて、今年はさらに話題を提供してくれそうです。

山中 強く皆さんから愛される選手を育てて活躍してもらうというのはゴルフ振興のためにも必要なことだと思います。ゴルフ振興に話題を移しますと、池谷会長が一昨年の6月に就任されてから本格的にゴルフ振興に力を入れるためにゴルフ振興推進本部を立ち上げました。同本部は「情報シェアリング部会」「ゴルフと健康部会」「女性とゴルフ部会」という3つの部会があり、それぞれ具体的な活動をスタートしています。また昨年8月にはR&A主催で日本のゴルフ界が直面している問題点やゴルフ振興などを話し合う「R&Aジャパンゴルフサミット」が開催されました。

池谷 「R&Aジャパンゴルフサミット」は学ぶことが多かったですね。私が再認識したのは日本のゴルフ界は世界の中でも非常に大きな存在だということ。日本はゴルフ場の数、ゴルフ人口でアメリカに次ぐ第二のゴルフ大国でR&Aも大きな関心を持っており、日本のゴルフがさらに発展するようにR&Aの知見を利用してくださいと。ひとつ驚いたのがR&Aはゴルファーの定義の解釈を我々よりもずっと広い視野で見ているということでした。

山中 彼らは練習場だけのゴルファーやシミュレーターゴルフ、さらにはゲームのゴルフなども全部含めてゴルファーのポテンシャルがあると解釈していましたね。

池谷 だから日本でもそのような分野にまで広げて振興していきましょうよと。R&Aは普及振興には非常に力を入れており、日本が振興に力を入れ始めたことに関心を持っていただいていることがよく分かりました。振興という点では女性ゴルファーの参画が我々の重要な目標になっています。

山中 昨年6月に行ったWOMEN'S GOLF DAYはいろんなゴルフ場やいろんな方に参加していただいて評判が良かったですね。女性ゴルファーを増やすだけでなく公益法人としての多様性を実現するために女性の理事を増やすことも求められています。

池谷 重要なことです。それに女性理事だけでなく外部のいろいろな知識を持った方にも参加していただいてJGAの活動が外部に分かる透明な運営をしていくことも重要だと思っています。

山中 変革の時期を迎えているJGAですが、今年10月17日に創立100年を迎えます。ちょうど日本オープン



JGA100年の節目に語る山中専務理事(左)と池谷会長(右)



写真提供：R&A サミット

昨年8月に開催されたR&Aジャパンゴルフサミット

Golf Development 普及振興

日本ゴルフ協会ではアスリートゴルファーのみならず、一般ゴルファーやこれからゴルフを始める方も対象としたゴルフの普及、振興を目指し、様々なゴルフ振興の普及活動を行っています。



ゴルフと健康
Golf & Health

ゴルフを通じて国民の幸福と健康維持増進に寄与し広く社会に貢献することを目的とし、「ゴルフ健康週間」や健康維持増進のための「JGA WAG スクール」などの普及活動を行っています。





女性とゴルフ
Women in Golf

「Women's Golf Day」を始めた女性ゴルファーへの普及活動を行っています。





ゴルフ応援サイト
Golf for Better Life

ゴルフの普及振興に関する情報を収集・発信しています。



—JGA ゴルフ振興推進本部



100周年を記念して作成されたロゴマーク入りグッズ

池谷 日本オープン会場の東京ゴルフ倶楽部では100周年を祝うためにいろいろな準備をさせていただいているようです。そして日本アマの会場が廣野ゴルフ倶楽部。東西の歴史ある倶楽部で節目の大会を行う形になります。

山中 JGAでは100周年ロゴ入り記念グッズの発売や日本のゴルフの歴史をデジタル化すること、あるいは日本プロゴルフ殿堂とJGAが一緒になって日本ゴルフ殿堂としてやっていくなど、さまざまな活動を計画しています。

池谷 100年前は関東と関西、合わせて7つの倶楽部が一緒になってJGAという組織をつくったわけで、当初は倶楽部中心の運営でした。ですが現在は日本のゴルフ全体をまとめる役割を担った組織へと成長しています。正会員であるメンバーシップの倶楽部だけではなくパブリックのゴルフ場や練習場などと一緒に活動することが現在のJGAの活動に求められていると思います。

山中 我々は公益法人ですし、3年前に定款を変更したのもゴルフ全体のための普及振興を中心にして公益法人として国から求められることをやっていこうとしたからです。昨年は本格的、具体的な活動ができた1年だったので100周年を機に一層加速しなければならないと考えています。

池谷 公益法人になり、オリンピック競技にもなり、与えられている環境条件が変化してきています。それに対応して活動していかなければならない。これから先の100年はさらにそのような活動を進めていくというのが目標になるでしょう。

山中 ゴルフやゴルフ場について世間から誤解されていることはたくさんあります。しかし、ゴルフは健康に非常に良いという研究データが出ていますし、高齢者の孤立や認知症の予防にも役立ちます。それにゴルフ場は雇用や経済効果などで地域社会に貢献していますし、環境保全や災害時の拠点としても活用されています。こういったことをきちんと世間に広くアピールして、

ゴルフのイメージアップを図ることもJGAの大切な役割だと思っております。ゴルフ場利用税や国家公務員倫理規程の問題もまずはゴルフやゴルフ場のイメージアップが先と考えています。そのためにもゴルフの振興をきちんとやっていこうというのが現在の協会としての方針ですね。

池谷 さまざまな求めに応じて活動を強化していくことになりませんが、求められることがこれだけ多岐にわたると現在の財源では対応できないという問題があります。いかにしてJGAの財源を増やしてさらに大きな活動ができるようにするか、今、それに腐心しているところです。

山中 日本のゴルフ界は同じようなことをやっている組織や団体が数多くあって、お金や時間を有効的に使えていないという現状があります。そこをJGAが旗振り役となり、一緒にできることは一緒にやっていく。スリム化していかないと人の力も関心もお金も集まりにくいのではないのでしょうか。

池谷 確かに細分化され過ぎていますね。各団体、日本のゴルフ界のために努力しているということは同じはずですが。協力し合ってひとつの目標の元にやればもっと効率よく運営でき、たくさんの方が出せるはずです。JGAだけでは人員面でも財政面でも時間の面でも限りがある。今までのやり方では限界にきていると感じます。

山中 次の100年に向けては地区ゴルフ連盟やゴルフ界全体での協力体制が重要になってきますね。池谷会長、100周年の節目にJGAとして具体的な数値目標を掲げるのはいかがでしょう。たとえば現在のゴルフ人口は600万人とも700万人とも言われていますが、ゴルフ振興を推し進めて最盛期に近い1000万人くらいにしたいですね。それにハンディキャップインデックス取得者100万人と女性ゴルファーの比率を全体の30%に増やすことも達成したい目標だと思いますが……。

池谷 1000万人というのはそう簡単ではないと思いますが、目標は大きく掲げたほうがいいですね。

山中 今年はパリオリンピックもあります。JGA100周年で日本の選手が金メダルを取れば最高のお祝い事になります。

池谷 先ほどお話しした若い選手たちが活躍してくればゴルフに対する注目が高まりますので、そういう形の中で我々がやっていることを認めていただいて、さらなる展開につなげていきたいですね。

ゴルフ振興推進本部本格稼働から1年 ゴルファーを増やすための さまざまな取り組みと今後の展望

ゴルフの普及振興を推し進めるためにJGAが設置したゴルフ振興推進本部が本格稼働して1年が経ちました。同本部は具体的にどのような活動を行ってきたのか。この先、どんな活動を目指しているのか。ゴルフ振興推進本部本部長を務める山中博史 JGA専務理事に聞きました。



プラス5年。
スウェーデンのスポーツ医学・科学誌であるスカンジナビアンジャーナルに、スウェーデンゴルフ連盟の会員30万人において、死に繋がるがんの減少、寿命の伸びなどについて、驚異的な研究成果が発表された。ゴルフは手帳から100種類の癌を予防するまで全世代が楽しめるスポーツ。ゴルファーはプレーを楽しむと同時に精神的な健康も増進させることができるのです。

2023年 9月11日(月)～17日(日)
歩き出そう！
もっと楽しく、
もっと健康に。
ゴルフ健康週間

JGA 一般社団法人日本ゴルフ協会
www.jga.or.jp

—— ゴルフ振興推進本部の成り立ちと役割をお聞かせください。

山中 JGAは元々、アマチュアの競技団体という色合いが強い組織でした。そこから、すべての活動をゴルフの普及振興にひも付ける形に定款を変更したのが3年前の2021年です。少子高齢化の時代、この先どのようにゴルファーを増やしていくのが普及振興のカギになってくるわけですが、それをJGAだけでなく全国8つの地区連盟やプロ3団体、全日本ゴルフ練習場連盟や日本ゴルフ用品協会などゴルフ関連各団体と一緒に考えていこうと立ち上げたのがゴルフ振興推進本部です。その中に「ゴルフと健康部会」「女性とゴルフ部会」「情報シェアリング部会」という3つの部会をつくり、昨年はこの3部会が本格的な活動を始めた年でした。

—— まず「ゴルフと健康部会」についてですが、どのような目的でつくられたのでしょうか。

山中 「ゴルフと健康」は世界のゴルフ界が力を入れて取り組んでいるテーマです。たとえばR&Aでは数年前からイギリス政府や学者の協力のもとでゴルフが

いかに健康に貢献しているかというエビデンスを出しています。日本ではKGA（関東ゴルフ連盟）がWAG（ウィズ・エイジングゴルフ協議会）というゴルフと健康に関する事業に長年取り組んでいましたが、それをJGAゴルフ振興推進本部で引き継いだ形になっています。「ゴルフと健康部会」はゴルフをすることで健康寿命が延び、ゴルフを少しでも長く続けられる、結果として医療費削減に役立つ、あるいはお年寄りの孤立化を防ぐ効果などを研究し、ゴルフが国民のみなさんの生活にいかにか貢献しているのかということを知っていただくというものです。

—— 具体的にはどのような活動を行っているのでしょうか。

山中 「JGA WAGスクール」というゴルフ未経験者でも参加できる健康維持推進のための8日間のスクールをKGA時代から実施しています。このJGA WAGスクールを1日で体験してもらえらる1Dayプログラムをつくり、9月の日本シニアオープン（9月14～17日、能登CC）の週を「ゴルフ健康週間」として日本シニアオープンの会場をはじめ全国24会場で開催し、同スクール

WOMEN'S GOLF DAY

JGA主催のWGDレッスン会 in 宮里藍サントリーレディースオープンを開催。横峯選手も特別参加。参加者から大反響だった



JGA WAGスクール

健康維持推進のための「JGA WAGスクール」の体験版1Dayプログラムを日本シニアOP会場をはじめ全国24会場で開催。未経験者や初心者を対象とした内容で好評を得ている



のPRを行いました。また、日本シニアオープンの会場では健康のために歩いて観戦していただくという趣旨でスタンプラリーを行いました。総入場者の約20%にあたる814人が参加してくださり、非常に好評でした。11月にはJGA WAGスクール卒業生で構成するWAGクラブの第1回イベントとしてラウンド会を日高CC（埼玉県）で行い、卒業生同士のコミュニケーションを図りました。

—— 次に「女性とゴルフ部会」の目的と活動内容をお聞かせください。

山中 R&Aでは女性のゴルフ参加率、プレーだけでなく組織の運営などへの参加率も含めたものですが、これを増やしていくための「女性のゴルフ振興憲章」を設けています。JGAも賛同し2019年に署名しました。女性ゴルファーを増やし、女性が活躍する場を増やすことは世界的な流れであり、ゴルフ振興推進本部でも柱のひとつとして「女性とゴルフ部会」を設置しました。まず組織としては2022年のJGA役員改選時に女性理事の比率を13%から30%に増やしました。今年6月の改選時にはさらに増やす予定です。一般

ゴルファーに向けた活動としては、昨年WOMEN'S GOLF DAY（以下WGD）を実施しました。WGDは女性にゴルフを始めてもらうきっかけづくりやゴルフを継続してもらうことを目的とした世界的なイベントです。2016年にアメリカで制定されたもので毎年6月の第1火曜日に世界各地で開催されています。このWGDを日本流にアレンジして昨年初めて実施したのです。1年目ということで登録費用はJGAが負担し、ゴルフ場、練習場など217の施設でイベントを行いました。

—— プロゴルファーやトーナメントの主催者も協力してくれたようですね。

山中 はい。当該週に行われた女子ツアーの宮里藍サントリーレディース会場で「WGDレッスン会」を開き、宮里藍さんや横峯さくらさんも来てくださいました。その前週のヨネックスレディースでもWGDの告知やイベントをしていただきました。男子ツアーでは日本ゴルフツアー選手権で女性の入場を無料にするなどさまざまな形で協力していただきました。WGDは1年目から非常に反響があって、みなさん「ぜひ来年も」と言ってくださり、成功だったと感じています。



日本女子OP開幕前に開催された歴代優勝者による特別レッスン会
写真(上)塩谷育代プロ 写真(下)服部道子プロ



—— 日本女子オープンの週にも女性向けのイベントを行ったと聞きました。

山中 昨年の日本女子オープンは福井県での開催だったのですが、開幕前の火曜日に福井市内の練習場で塩谷育代プロ、服部道子プロ、馬場ゆかりプロ、宮里美香プロの歴代優勝者4人による「特別レッスン会」を行い、10代から70代まで20人の女性ゴルファーが参加していただきました。

—— このような活動の情報を発信していくのが「情報シェアリング部会」ですね。

山中 そうです。ゴルフ界はさまざまな団体がさまざまなゴルフ振興策を講じていますが、理想はひとつにまとまって活動することです。普及振興活動に関する情報をまとめ、発信するプラットフォームを構築するのが「情報シェアリング部会」の役割。一昨年末に「JGAゴルフ応援サイト」をスタートさせてゴルフ関連団体やゴルフ場みなさんに普及振興の情報を投稿していただき、広く発信できる形をつくりました。2023年末時点で登録アカウントが1,154あり、うちゴルフ場は約1,000に達しています。ただ、まだまだ投稿数もアクセス数も少ないのが現状です。

—— 本格始動2年目を迎える2024年、各部会それぞれのような展開を考えていますか。

山中 まず「ゴルフと健康部会」ですがJGA WAGスクールを全国展開で広げていきたいと考えています。そのためには各地区連盟や各団体のみなさんをお願いしてこの活動を強く推していただける形にしたい。1Dayプログラムもありますから、まず経験していただきたいですね。それから、昨年の日本シニアオープン会場で開催したスタンプラリーは評判が良かったので今年は日本オープンと日本女子オープンの会場でも実施しようと考えています。両大会はギャラリー数も多いですし、今年は比較的フラットなコースで開催されますから歩きやすいと思います。余談ですが、ギャラリーとして18ホール歩くと10,000～11,000歩を歩くことになります。ぜひ多くの方に参加していただきたいですね。

—— 「女性とゴルフ部会」はいかがでしょう。

山中 今年も6月のWGDを実施しますが、たとえば春にこのイベント、夏にはこのイベント、秋には……というように年間を通した活動ができるように企画を練っているところです。

—— 現在、女性ゴルファーの割合は全体のどれくらいでしょうか。

山中 以前より増えて18～20%くらいになったのではとされています。最近の女子プロゴルファーは注目されていますし、ファッションもおしゃれな選手が多いので、そういったことが若い女性でゴルフを始めようという方が増えた一因になっているのではないのでしょうか。ただ、まだまだ女性が少ないのが現状。より活動に力を入れて女性ゴルファーを増やす努力を続けていきたいです。また、より広く活動を知っていただくために、我々の取り組みのスローガンとロゴマークを作製中です。「ゴルフと健康部会」ではすでにポスターやポップをつくって全国のゴルフ場に配布させていただいたのですが、評判がよくていろんなところで掲示してくださっています。



コース内18カ所をめぐるスタンプラリー「くる印めぐり」

全国のゴルフ場に配布されているゴルフと健康の卓上POP

—— 「情報シェアリング部会」のテーマは先ほどおっしゃったように「JGAゴルフ応援サイト」への投稿数やアクセス数を増やすことでしょうか。

山中 「JGAゴルフ応援サイト」を開設して1年間の投稿数は297、閲覧者数は約2万人でしたから理想よりひとけた、ふたけた少ないと感じています。基本的に投稿していただける内容はゴルフの普及振興に関するもの。たとえばゴルフ場で取り組んでいる子供向け、女性向け、あるいは高齢者向けのイベントや地域貢献活動などを投稿していただく形です。それを他のゴルフ場の方が見て「こんなアイデアがあるんだ、うちでもやってみよう」と参考にしていただくこともできます。それに、ゴルフ業界に関わるさまざまな方のインタビュー記事なども掲載していますが、もっと幅を広げたい。たとえばスポーツ選手や著名人に協力していただくということも考えたいですね。もっとうまくPRして「JGAゴルフ応援サイト」を知っていただくことが課題です。

それと何よりもゴルフのイメージアップを図ることが大切です。これだけゴルフというスポーツが多くの人にプレーされ、国民の健康や地域社会や振興に寄与している一方で、未だにゴルフは贅沢な遊びだというイメージを持たれている。そのイメージを払拭することが、我々が長年に渡って訴えているゴルフ場利用税問題や、国家公務員倫理規程の打破に繋がっていくのだと思います。



JGAゴルフ応援サイト
ゴルフ関連団体やゴルフ場から普及振興の情報を広く発信



ゴルフ場で取り組まれている子供・女性・高齢者向けの地域貢献活動やゴルフ業界に関わる方のインタビュー記事が投稿されている



—— これらの活動をより発展させていくためにはゴルフ界全体の協力も重要になってきますね。

山中 はい。日本にはJGA加盟倶楽部のメンバー以外にもたくさんのゴルファーがいます。パブリックコースや練習場、或いはシミュレーターでのゴルフを楽しんでいる方も大勢います。今年は日本パブリックゴルフ協会にもゴルフ振興推進本部に入っていただいて一緒にゴルフの普及振興を進めていく予定です。普及振興活動は時間がかかるかもしれませんが、ゴルファーの数が増えなければ、競技をする人もハンディキャップを取る人もなくなり、JGAの存在価値がなくなってしまいます。JGAはすべてのゴルファーのためにあるのだという意識を役員、委員、職員とも共有しながら普及振興活動に取り組んでいるところです。

日本ゴルフ界 2大会連続のメダル 獲得を目指して

2024年8月
パリ五輪開催

2021年8月、世界中を熱狂させた東京オリンピックから3年。アスリートの祭典であるオリンピックがフランス・パリで開催されます。2021年に霞ヶ関カンツリー倶楽部で開催されたゴルフ競技では、稲見萌寧が日本女子ゴルフ初の銀メダルを獲得するなど活躍を見せた日本代表。パリオリンピックでは、2大会連続のメダル獲得を目指します。開幕まで約6ヶ月と迫ったパリオリンピックの情報をお知らせします。

パリオリンピックゴルフ競技は8月1日にル・ゴルフ・ナショナルで開催

パリオリンピックは、7月26日に開会式が挙行され8月11日に閉幕する予定です。フランス各地で32競技329種目が実施されます。ゴルフ競技は、ル・ゴルフ・ナショナルで男子が8月1日から4日、女子が8月7日から10日の各4日間72ホール・ストロークプレーで行われます。

ル・ゴルフ・ナショナルは、フランス・パリ西部のベルサイユ宮殿にほど近い広大な土地に、世界で200コース以上のゴルフ場の設計を手掛け、光と影の魔術師といわれ名声を集めている設計家のロバート・ヴォン・ヘギー氏の手により1990年に開場しました。無数のリンクスタイルのバンカーを備え、起伏のあるフェアウェイが特徴のコースで、1991年以来毎年、

欧州DPツアーのフランスオープンの舞台となっている他、2018年にはライダーカップ、2022年には世界アマチュアゴルフチーム選手権が開催されています。2023年には久常涼がフランスオープンで優勝。世界アマでも男女日本代表が優勝争いの一角に食い込むなど、日本選手の活躍が続いているコースです。

パリオリンピックへの切符は 6月のランキング上位60名の手

パリオリンピックの出場は、世界ランキングを元にしたオリンピックランキングで決定されます。男子は2024年6月17日、女子が2024年6月24日時点のオリンピックランキングをもとに出場枠が決定します。具体的には、同ランキング上位15位までは各国最大4名までが選ばれ、16位以下の選手は15位以内の選手を含めて最大2名までが選ばれ、男女ともに最大60名で開催されます。



パリオリンピック競技が開催されるル・ゴルフ・ナショナル

ターやナショナルトレーニングセンター、強化活動拠点のフェニックス・シーガイア・リゾート(宮崎県)の利用のほか、医科学的なサポートなど支援プログラムを提供しています。

2024年JOC認定 ゴルフ競技オリンピック強化指定選手

男子:久常涼、星野陸也、中島啓太、蟬川泰果
金谷拓実、今平周吾、比嘉一貴、大槻智春
女子:山下美夢有、古江彩佳、笹生優花、岩井明愛
西郷真央、櫻井心那、岩井千怜、西村優菜

また、パリオリンピックでは日本代表が十分なパフォーマンスを発揮できるように専門スタッフが同行し、快適に大会に臨めるよう衣食住の環境整備を行う予定です。ゴルフ日本代表がメダルを獲得した際には、JOCからの報奨金とは別にJGAオリンピックゴルフ競技対策本部から金メダル2,000万円、銀メダル1,000万円、銅メダル600万円の報奨金を授与します。

国際ゴルフ連盟 (IGF) オリンピックランキング
<https://www.igfgolf.org/olympic-games/qualification-system>



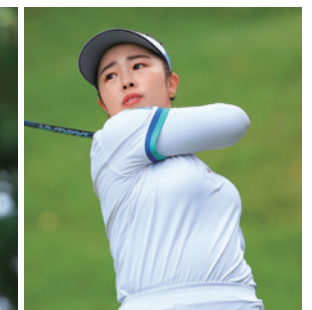
日本代表がパリオリンピックで着用するユニフォームやキャディーバックは、2024年6月に皆さまにお披露目できる予定です。

日本代表のメダル獲得に向けてのサポート

JGAは、日本オリンピック委員会の選手強化制度「JOC認定オリンピック強化指定選手」を申請しています。2024年は男子が2023年12月4日時点の世界ゴルフランキング、女子は2023年11月27日時点の世界女子ゴルフランキング上位から各8名をゴルフ競技強化指定選手に申請し、JOCから認定を受けました。オリンピック強化指定選手には国立スポーツ科学セン



中島啓太



山下美夢有

パリオリンピックゴルフ競技のマイルストーン

6月17日	男子オリンピックゴルフランキング（OGR）期間終了
6月18日	男子 OGR が発表され、国際ゴルフ連盟が国内オリンピック委員会 / 国内競技連盟に割当数と通知。国際ゴルフ連盟が男子の再配分予備リストを公表。
6月24日	女子オリンピックゴルフランキング（OGR）期間終了
6月25日	女子 OGR が公表され、国際ゴルフ連盟が国内オリンピック委員会 / 国内競技連盟に女子の割当を通知。国際ゴルフ連盟が女子の再配分予備リストを公表。
6月27日	国内オリンピック委員会は国際ゴルフ連盟に割り当てられた出場枠の使用意思を表明する。
7月 2日	国際ゴルフ連盟は全ての未使用の出場枠を再配分する
7月 8日	パリオリンピックエントリー締切
7月31日	男子の再配分終了
8月 1日～ 4日	パリオリンピック男子個人ストロークプレー
8月 6日	女子の再配分終了
8月 7日～10日	パリオリンピック女子個人ストロークプレー

オリンピックゴルフ競技と日本代表

2016年リオオリンピックで112年ぶりにゴルフ競技が実施種目に復活。ゴルフ日本代表として初めてのオリンピックに出場したのは、片山晋呉、池田勇太、大山志保、野村敏京の4名でした。2016年大会では、野村がメダル獲得まであと一歩と迫る4位に食い込んでいます。2022年にはコロナウイルスのパンデミックにより史上初の1年延期の末に東京オリンピックが開催。霞ヶ関カントリー倶楽部を舞台にゴルフ競技が行われました。日本代表は松山英樹、星野陸也、畑岡奈紗、稲見萌寧の4名。男子は松山が銅メダルを争うプレーオフの末に4位T。女子は稲見が銀メダルを巡るプレーオフを勝ち抜き、女子ゴルフ初の銀メダリストに輝きました。



プレーオフの末、4位Tに終わった松山英樹
女子ゴルフ初の銀メダルに輝いた稲見萌寧

オリンピックとゴルフの歴史

近代オリンピックが始まったのは1896年のアテネ。ゴルフは1900年の第2回大会でオリンピックの実施競技になりました。その第2回大会は奇しくも2024年大会の開催を控えるパリで開催されました。第1回のアテネ大会では女性の種目がなかったため、パリ大会で女性も参加できるゴルフが実施されたのです。女子競技は、10名が参加し9ホール・ストロークプレーで行われ、47ストロークでマーガレット・アボットがアメリカの女性で初のオリンピック金メダルの栄誉を勝ち取りました。男子は36ホール・ストロークプレーの結果、167ストロークでホールアウトしたチャールズ・サンズ（アメリカ）が金メダルを獲得しました。1904年にセントルイスで行われた第3回大会でのゴルフ競技は男子のみの開催となり、個人戦と団体戦での実施。この第3回大会では、ノン・オリンピック種目としてドレイビングコンテストやパッティングコンテストも開催されたと記録が残っています。



パリ大会でM.アボットが女性初の金メダル



1904年セントルイス大会の競技会場
グレン・エコーCC